

【事業目的】 令和6年4月に策定した「福井県文化振興プラン」に基づき、本県の文化芸術活動を持続的・発展的なものとするため、「ふくい文化創造センター（仮称）」を県文化振興事業団に令和7年4月に設置して、文化団体への支援や人材育成、文化芸術活動実践者とのネットワークなどを充実させる。

【県内の文化に関する課題】（R4県民の文化に関する意識調査結果および文化団体・経済団体・教育機関等との意見交換結果）

- ・文化芸術活動の実践者が減少、持続的発展的な活動が難しい
- ・誰もが文化芸術に参加できる環境が不十分

- ・子どもたちが文化芸術に触れる機会が不十分
- ・県内に芸術系高等教育機関がないため、文化芸術分野への進路選択が難しい

- ・文化芸術活動に対する企業の理解と応援が不十分
- ・県民が文化活動を楽しめる環境と感じない

県文化振興事業団にアーツカウンシル機能を持つ「ふくい文化創造センター（仮称）」を令和7年4月1日に設置して、県民のウェルビーイングと地域の活力が相乗的に高まる好循環を創出する社会の実現を目指す（アーツカウンシルとは、専門性を持つスタッフが文化芸術の振興を目的に文化事業への助成を中心とした支援を行う機関）

①誰もが文化芸術に触れ、心豊かに暮らす福井

【アートプロジェクト支援】

- 文化団体のアートプロジェクトに対して**助成金を支給**（R6・33団体）
- 文化創造センターのディレクターなど**専門スタッフ**が文化団体のアートプロジェクトを**伴走支援**

【共生社会実現プロジェクト】

- 障がい者、高齢者も楽しむことができる**文化芸術プログラムを企画（障がい者アート展示、福祉施設へのアーティスト派遣等）



➡ 障がい、年齢にかかわらず**誰もが文化芸術を楽しめる環境**を創出

②地域の文化を守り、育て、未来へ引き継ぐ福井

【子ども文化芸術体験1万人プロジェクト】

- 学校へ出向いた演奏会や楽器体験会**を実施
- 県内文化施設の**主催公演チケット**を**県内の子どもへ無償提供**

【アートキャリア講座】

- 文化芸術分野への進路を希望する中高生と県内外で活躍する演奏家やデザイナー等との交流、ワークショップ、職場見学等を実施



➡ 県内の子どもたち**1万人が毎年文化芸術を体験できる環境**を創出

③県民と訪れる人がともに楽しむ福井

【企業の文化芸術CSR活動促進】

- CSR活動の意義や効果の理解を促進するため、**ビジネスパーソン向けのセミナー**を開催
- 経済界をメンバーとした研究会を設置して、**CSR活動促進する仕組み作り**や県内事例の収集を実施

【文化芸術で賑やかな福井づくり】

- 企業や団体へ**越のルビーアーティスト**等の利用を促す（費用支援）



➡ 県内の文化芸術化活動を**県内企業が積極的に応援する環境**を創出

ふくい文化創造センターの役割について

1 ふくい文化創造センターの目的

- ・文化芸術に関する専門人材を配置して、文化団体や文化活動の担い手に対する「コーディネート機能」「情報提供・相談機能」を強化することで**誰もが文化芸術に触れ、県民と訪れる人がともに楽しむ福井を目指す**
- ・専門人材が文化活動の伴走支援を行うことで、文化団体にはなかった発想や新たな人脈、他の文化団体や関係団体とのつながりが生まれて、**幅広い県民が楽しめる内容・活動の普及・担い手確保につなげる**

2 センターに配置する人材の役割

(公財) 福井県文化振興事業団

ふくい文化創造センター

センターは、事業団のアート振興部（現6名）を改組して職員を10名配置（R6から4名増）

- ・ **ディレクター** 1名（新規）
- ・ 地域おこし協力隊 3名（1名増）
- ・ プロパー職員 3名（2名増）
- ・ 県職員 3名

○センター人材の役割

- ・文化団体からの**相談対応**、地域の課題解決や地域の魅力発信につながる文化芸術事業に**助成金を支給**
- ・文化団体の活動に対する助言、他の文化団体や関係団体とつなぐ等の**伴走支援を実施**
- ・子どもたちが文化芸術に触れる機会の提供、インクルーシブプログラム、企業の文化団体支援を促す事業等の実施



アートを活用した商店街活性化事業（勝山）

3 センター設置後の変化

○相談対応・伴走支援

- ・空き家を活用して何かしたい、廃材を活用して子ども向けに何かしたいとの漠然とした相談に対応できていない
- ・助成金を交付する文化団体へ伴走支援を十分にできていない

伴走支援により、文化団体・担い手の育成を図る

- ・ディレクターが**全国の成功事例や他県でのサポート経験を基に具体的な助言を行う**
- ・助成金を交付する全ての文化団体に担当者を割り当て、活動への助言・財源確保・他団体との連携などの**伴走支援を行い、活動の継続・発展につなげる**

○伴走支援成功のイメージ（華道団体の例）

- ・個別の流派の発表会
- ・HPやSNSがないため、チラシによる身内への周知のみ
- ・参加するのは流派の会員や家族のみ

文化団体を伴走支援し、多くの県民が楽しめる事業へ

- ・県内**各流派が連携して合同で作品を制作・発表**
- ・HP、SNSで周知して幅広い県民に参加いただく
- ・国際交流協会と連携して**外国人向けの体験会**を開催
- ・会員だけでなく、**子どもや一般の方も華道体験**ができるワークショップを開催して、担い手を育成